


2022年11月30日（水）19:45～21:15  
国際医療福祉大学IUHW大学院公開講座

# 前例を超えて、新たな前例を創りたい!! ゲーム×アクセシビリティ の新たな可能性

愛知教育大学  
特別支援教育講座 准教授 相羽 大輔  
aiba@aecc.aichi-edu.ac.jp 

1

## アルビノとは (相羽・矢吹, 2013)

(1) アルビノ (指定難病164) とは  
全身、あるいは、目のメラニン色素が作れない、  
わずかしかならぬ状態で、目に症状が限定さ  
れる眼白子症と、目と全身に症状が出現する眼  
皮膚白子症 (チロチナーゼ陽性型・チロチナー  
ゼ陰性型を含む) に大別できる。

### (2) 遺伝と種類について

- ・ 二万人に1人の割合でうまれる。
- ・ 50～70人に1人がアルビノ遺伝子を持つ。
- ・ 当事者からアルビノが生まれるとは限らない。
- ・ 中には、メラニン色素を蓄積できる人もいる。

4

## 自己理解・まえおき

2

## アルビノとは (つづき)

### (3) 主な症状

- ・ 眼の問題： (視力低下、眼振、羞明など)
- ・ 皮膚の問題： 日焼けをしやすい、紅斑
- ・ 外見目の問題：  
髪：白～金～赤茶  
肌：色白  
目：灰、茶、青など

いわゆる、ビジブルな障害とインビジブルな障害  
(視覚障害：弱視・ロービジョン)のある状態です  
。見え方としては……

5

## 自己紹介

誕生：アルビノによる先天性弱視  
幼～小：地域の小学校 (弱視学級に通級)  
中～高：筑波大学附属盲学校 (現 視覚特別支援学校)  
大学：桜美林大学健康心理学科  
大学院：筑波大学大学院障害科学専攻 (博士)  
就職：前 慶應義塾大学 (デジタル教科書研究に従事)  
現 愛知教育大学特別支援教育講座

障害の伝え方、交流及び共同学習、心のバリアフ  
リー、特別支援教育におけるICTやゲームの活用等、  
様々なテーマで研究・実践をする傍ら、愛知～東京  
にいる地域の視覚障害児の支援に携わっています。

3

## アルビノの関連情報



日本アルビニズムネットワーク  
メッセ-ジ (2020)



川名 (2013)



石井 (2017)

6

## アルビノの児童とまぶしさ



7

## 参考：私と障害開示

(川名, 2013)より一部抜海

大学生のころ、毎月のように仲のいい友人たちとディズニーランドやディズニーシーに遊びに出かけた。その日も親しい友だち数人と東京ディズニーランドに繰り出していた。アトラクションをいくつか楽しんだあと、みんなでキャラクターグッズを売る店を冷かしていたときのことだ。周囲がにわかに騒がしくなった。「あっ、ミッキーだ」仲間の一人が声を上げるや外に駆け出した。ほかの友人たちもあわてて身を翻す。大輔は店に取り残された。いったん友人の姿を見失うと、追いかけるのは困難だ。置いてきぼりになって、悲しくなった。楽しい場所に来れば、みんなわくわくする。僕が見えないことを忘れてたって仕方ない。頭ではわかっていても、悲しいことにちがいはなかった。声をかけてくれればいいのに。そんな思いが胸をよぎる。しばらくして友人たちは店にもどってきた。「ごめんごめん」。謝られた大輔はまったく気にしていないふりをした。「ひと声かけてほしかった」という言葉は呑み込んだ。

10

## アルビノと偏見



8

## 参考：私と障害開示

(川名, 2013)より一部抜海

数日後、大の親友が近づいてきて語りかけた。「大輔って、うれしいことは言ってくれるけど、悲しかったり、苦しかったり、困っているときに、どうして言ってくれないんだ。親友として悲しいよ。自分はそう感じたときは正直に話してるのに、大輔はそうじゃない」友の言葉は身に染みた。確かに言いたいことが言えないなんて、友だちじゃない。それからは少しずつ本音を言うようになった。ディズニーランドでの出来事は忘れがたいものとして記憶に刻まれた。大輔は、それまで自分の障害を上手に説明して助けを求めることができる人間だと自負していた。しかし、そんなに簡単に伝えられるものではないと思知らされた。親しくなればなるほど相手への期待が高まり、求めることも多くなる。それをそのまま伝えていいものかどうか。障害があることをどんなふうに説明すれば助けを受けやすくなるのだろう。障害のある者とない者の間に横たわるごちなさを、どうすれば取り除くことができるのだろう。

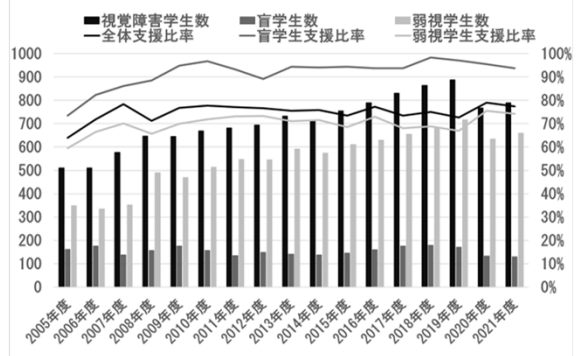
11

## 研究者という生き方を選んだ理由

1. インビジブルな障害者の生きにくさ  
: 障害をうまく伝えられなかった自分  
: 障害のある人とない人の橋渡しがしたい自分
2. たくさんの視覚障害児・者を助けたい  
: 学校の先生では全国区で活動できない  
: 学校の先生ではできることに限りがある

9

## 日本学生支援機構による実態調査

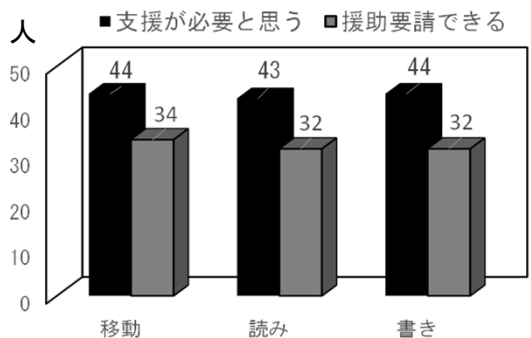


点字使用者よりLV者は援助要請できてない？

12

## LV学生の支援ニーズと援助要請

(相羽ら, 2013)を改編 n=49



支援が必要でも要請できない人が一定数

13

## ポイント

見えない人や、見えにくい人は、そもそもゲームを遊ぶことができるのでしょうか？

百聞は一見に如かずということで、まずは実際の様子をご覧ください!!

16

障害開示・援助要請の心理学的な研究は続けていますが、今は、数少ない視覚障害領域の教員養成に携わる大学教員として、地域の視覚障害教育の基盤として、子どもたちを支え、元気にすることを一番にしています。当事者・研究者だからできること、子どもファーストが何かを考え、日々、実践をしています。

14

## 音でスマブラを遊ぶ!!

点字使用の児童が、2台のスピーカーを設置し、音を手掛かりに、対戦格闘ゲームで遊ぶ様子です。



G-1グランプリ2021 入賞作品

17

ゲーム×アクセシビリティの可能性  
--視覚リハ・教育臨床への応用--

15

## ポイント

ゲームを楽しむための工夫には、どのようなものがありますか？

私たちは、ゲームがしたいというたったそれだけのモチベーションで、あの手、この手の工夫しています。

18

## ゲームと様々な工夫の事例紹介

### 【点字使用者・音声ユーザーの工夫】

1. 音を手掛かりに遊ぶ
2. 読み上げ等のアプリを使う
3. 攻略サイト等の情報をヒントにする
4. 見える人の目を借りる

### 【ロービジョン者の工夫】

2. 視覚補助具等を使う
2. アクセサリー等を駆使する

### 【アクセシビリティ】

1. ゲーム機本体の機能
2. ゲームソフト固有の機能

19

## ロービジョン者の工夫

Switchを外でプレイするには、モニターが小さいので遊べません。セカンドモニター(アクセサリー)を活用すれば、外でも遊べます。



セカンドモニター+変換アダプタ

22

## 点字使用者・音声ユーザーの工夫

音を手掛かりにするだけではなく、PCのスクリーンリーダーで画面のテキストを読ませながら、攻略サイトを参考に、ポケモンを遊ぶ様子です。



G-1グランプリ2022 入賞作品

20

## ゲームのアクセシビリティ

スマホのようにゲーム機にも、読み上げ、文字サイズ、配色等を変更する機能があります。

23

## ロービジョン者の工夫

拡大読書器は、小型ゲーム機を楽しむために最適な非光学的補助具です。画面の反射が気になるときは、ライトのオン/オフ、明るさ調整をします。



オニキスHDとSwitch

21

## ポイント

実際に、ゲームを活用した支援事例をご紹介します。ゲームは、お砂糖やお酒と一緒に。適量接種が健康によく、教育にもよいことを実感してください。

24

## 大切なことは何か

ぼくたちは、何のために

- ・ビジョントレーニングをしているの？
- ・視覚補助具の練習をしているの？
- ・ICTを使おうとしているの？

これらは全て手段であり、目的ではありません。

子どもたちは、友達と一緒にゲームがしたい。  
つながりたいから、工夫をしています。  
「ゲームをしたい、遊びたい」という自然な  
気持ちは、視覚リハやロービジョンケアに  
とって最高のモチベーションになりえます。

25

## 最近の話題: 対日審査勧告



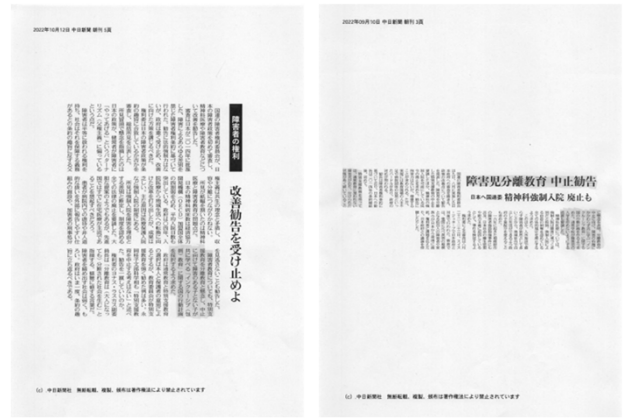
28

当事者団体とコラボしながら、色  
々なことに取り組んでいます。

次回のG-1グランプリは2023年2月頃の予定です。

26

## 最近の話題: 対日審査勧告



29

特別支援教育に携わるものとして  
伝えたい思い

## そもそも国連は何を懸念したのか？

(a) The perpetuation of segregated special education of children with disabilities, through medical-based assessments, making education in regular environments inaccessible for children with disabilities, especially for children with intellectual and/or psychosocial disabilities and those who require more intensive support; as well as about the existence of special needs education classes in regular schools;

(b) Children with disabilities being denied admittance to regular schools due to their perceived and actual unpreparedness to admit them, and the ministerial notification issued in 2022 according to which students enrolled in special classes should not spend their time in regular classes for more than half of their school timetable;

(c) The insufficient provision of reasonable accommodation for students with disabilities;

27

30

### そもそも国連は何を懸念したのか？

(d) The lack of skills of, and the negative attitudes to inclusive education of, regular education teachers;

(e) The lack of alternative and augmentative modes and methods of communication and information in regular schools - including sign language education for deaf children, and inclusive education for deafblind children;

(f) The lack of a national comprehensive policy to address barriers for students with disabilities in higher education, including for university entrance exams and for the study process.

31

### 意識を含めた勧告のポイント

インクルーシブ教育を推進するために、、、

1. 分離教育からの脱却（特に、通常の学級）
2. 全障害児が通常の学級で学ぶ権利の保障

※特に、2022年4月の文科通達の撤回

3. 十分な合理的配慮・環境整備
4. 教員・関係者の研修・意識改革
5. 盲ろう等の児童生徒の支援体制の構築
6. 高等教育へのアクセスの保障

などを改善するよう求めています。

34

### 国連は何をわが国に要請したのか？

(a) Recognize the right of children with disabilities to inclusive education within its national policy on education, its legislation and its administrative arrangements, with the aim of ceasing segregated special education, and adopt a national action plan on quality inclusive education, with specific targets, time frames and a sufficient budget, to ensure that all students with disabilities are provided with reasonable accommodation and the individualized support they need at all levels of education;

(b) Ensure access to regular schools for all children with disabilities, and put in place a “non-rejection” clause and policy to ensure that regular schools are not allowed to deny regular school for students with disabilities, and withdraw the ministerial notification relating to special classes;

(c) Guarantee reasonable accommodation for all children with disabilities to meet their individual educational requirements and to ensure inclusive education; for the study process.

32

視覚障害は、マイノリティの中のマイノリティです。障害者の中でも声が届いてしまうことが多いです。少なくとも、知的障害、発達障害とはちょっと違う状況にあることを知ってほしいと思います。

35

### 国連は何をわが国に要請したのか？

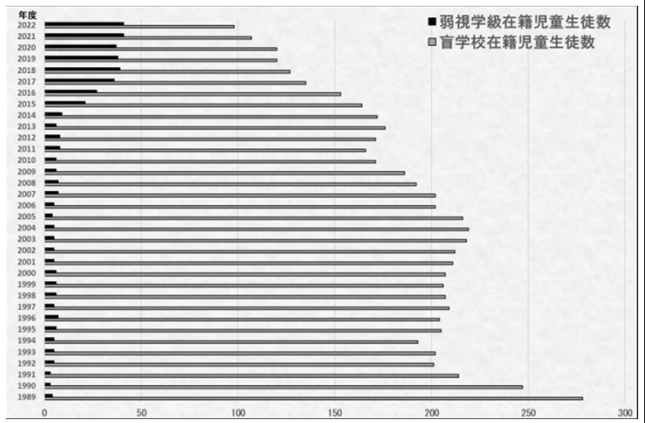
(d) Ensure the training of regular education teachers and non-teaching education personnel on inclusive education and raise their awareness about the human rights model of disability;

(e) Guarantee the use of augmentative and alternative modes and methods of communication in regular education settings, including of Braille, Easy Read, and sign language education for deaf children, promote the deaf culture in inclusive educational environments, and ensure access to inclusive education for deafblind children;

(f) Develop a comprehensive national policy addressing barriers for students with disabilities in higher education, including for university entrance exams and for the study process.

33

### 例えば、愛知県の実態（視覚障害）



36

視覚障害の場合は、支援学校の在籍児が減少して、支援学級の在籍児が増加しています。知的障害や発達障害とは異なる実態があります。弱視学級や視覚特別支援学校の支援は、通常の学級での学びの支えになっている可能性があります。それでも、弱視学級や視覚特別支援学校はいらないのでしょうか？

37

## 関連団体・コンテンツ等

相羽研究室が作成した弱視児の理解教育・福祉教育のデジタル教材



日本アルビニズムネットワーク  
www.albinism.jp

(特) Inclusive Fellowship Promotion  
www.team-ifp.com/wp

公益社団法人NEXT VISION  
https://nextvision.or.jp/join/g1-grand-prix/

40

## 例えば、イギリスでは

インクルーシブ教育を推進するために、、、

1. QTVI等というプロ教師が支援にあたる
2. 通常の学級といっても、拠点校方式が多い
3. 必要な予算措置が十分になされている
4. 高校レベルは特別支援学校が選ばれる

イギリスのウースター盲学校  
<https://www.ncw.co.uk/>

点字、歩行、ICT、視覚補助具、視知覚認知、触察・拡大・音声教材作成、ピアサポートの視点等のように、領域固有の専門性を持つ教師がどこで学んでも配置される制度が作れたら、視覚障害児は地域で学べるはずです。

38

## 引用・参考文献

- ・ 相羽大輔・河内清彦 (2010) 弱視学生に対する健常学生の交流抵抗感に及ぼす障害開示の効果について. 特殊教育学研究, 48 (4), 263-273.
- ・ 相羽大輔・河内清彦 (2011) 弱視学生の援助要請に対する健常学生の援助遂行可能性に及ぼす個人要因の効果について. 障害科学研究, 35, 7-18.
- ・ 相羽大輔・河内清彦・柿澤寿文 (2013) 移動, 読み, 書きに関する援助要請課題における弱視学生の支援ニーズ, 援助要請意図, 個人要因の関連について. 障害科学研究, 37, 27-37.
- ・ 相羽大輔・増田雄亮・尾原健太・奈良里紗・佐藤由希恵 (2020) 視覚障害教育におけるソーシャルスキルアセスメントツール(試案)作成の試み. 障害者教育・福祉学研究, 16, 75-83.
- ・ 相羽大輔・三宅琢 (2021) ゲームのアクセシビリティが視覚障害児・者の医療・教育に与える価値. 障害者教育・福祉学研究, 17, 79-83.
- ・ 相羽大輔・奈良里紗 (2019) 弱視学生支援サービスに対する健常学生の妥当性評価とそれに及ぼす個人要因の影響. 高等教育と障害, 1 (1), 13-23.
- ・ 相羽大輔・奈良里紗・増田雄亮・鈴木祥隆 (2019) 見えにくさを補う手段の違いが弱視学生支援に対する健常学生の態度に及ぼす効果. 障害科学研究, 43, 47-58.
- ・ 相羽大輔・渡辺正人・奈良里紗 (2021) 弱視児に対する視覚補助具の使い分けに関する指導実践-視覚補助具の活用効率や主体的な選択に着目して-. 障害科学研究, 45, 285-298.
- ・ 相羽大輔・矢吹康夫 (2013) 当事者団体によるアルビノの支援活動-子育て支援と社会への理解啓発を中心に-. 弱視教育, 51 (2), 20-25.
- ・ 石井更幸(編) (2017) アルビノの話をしよう. 解放出版.
- ・ 川名紀美 (2013) アルビノを生きる. 河出書房新社.

39